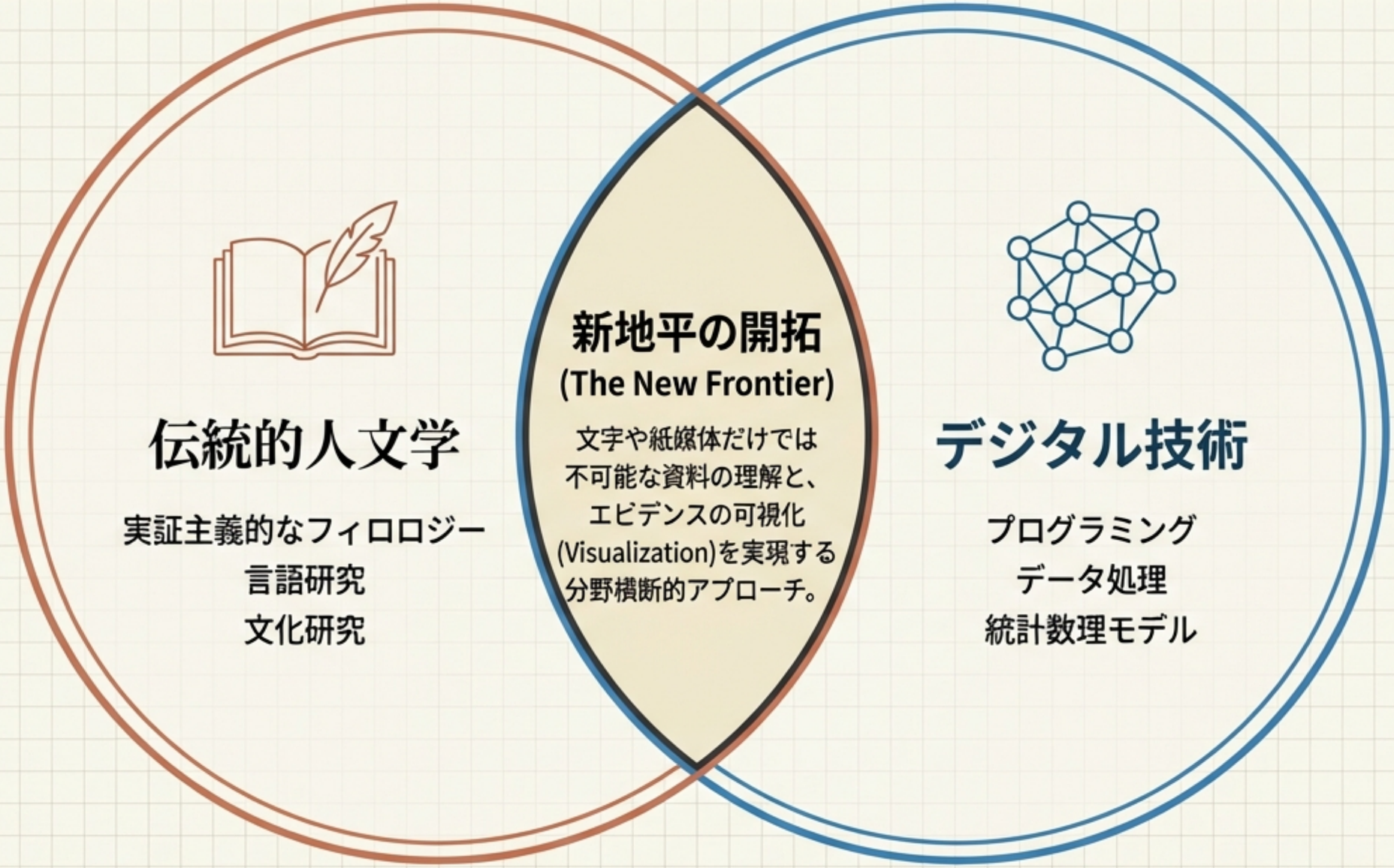
［For Master's & Doctoral Students］人文学・社会科学分野の研究者へ

デジタル技術が照らし出す、人文学の新たな地平

令和８年度 大阪大学大学院
高度副プログラム「デジタルヒューマニティーズ」

資料URL https://x.gd/dh_program

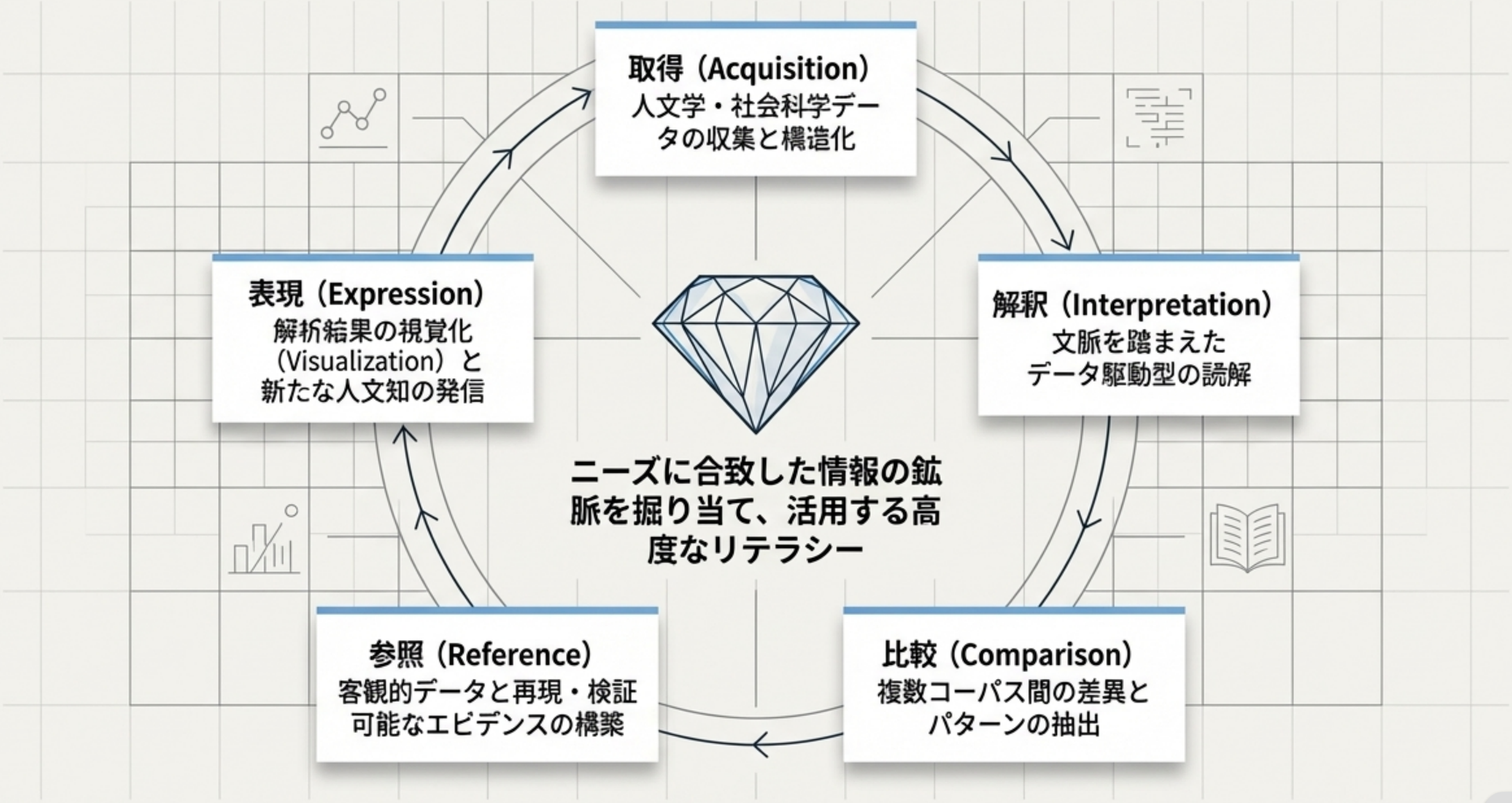


「Methodological Commons（方法論的共有地）」に基づく協働を通し、独創的なリサーチクエスチョンを創成する。

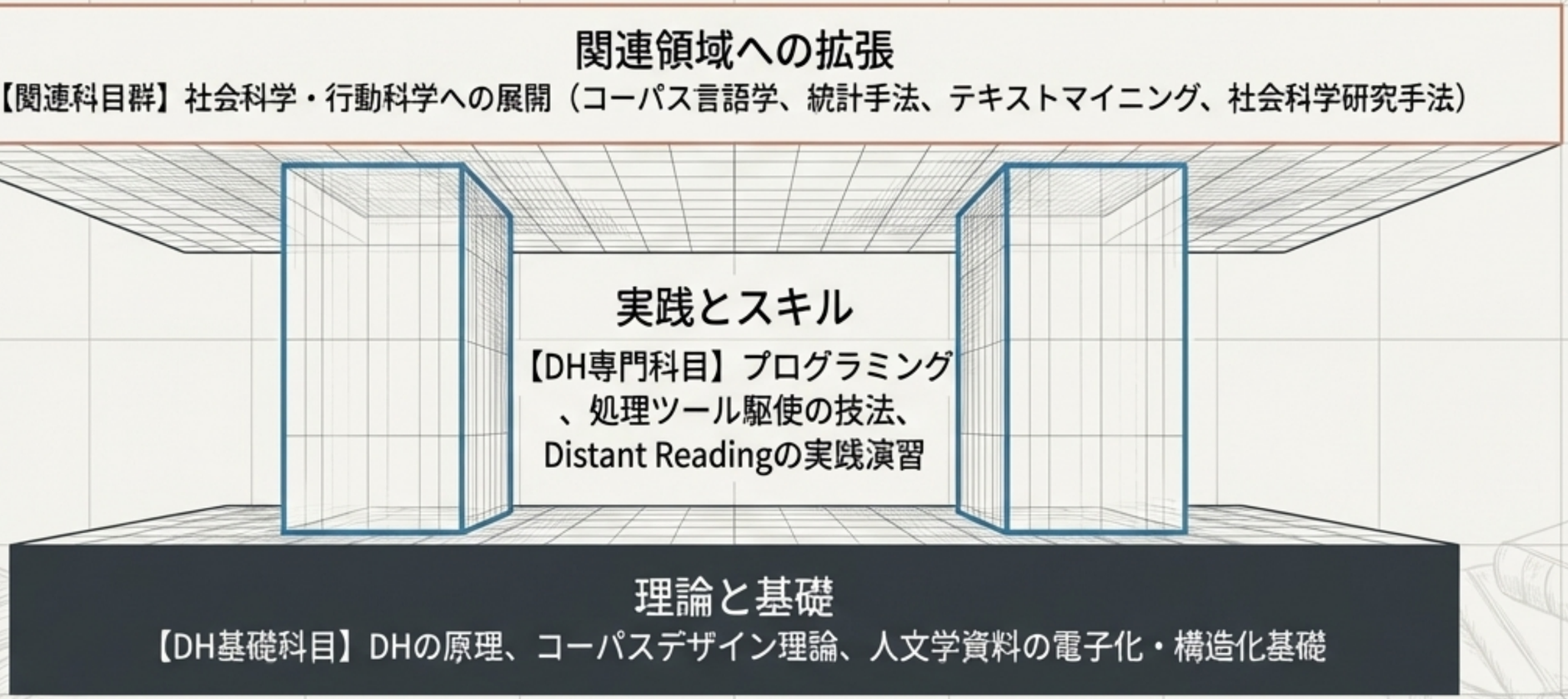
パラダイムシフト：伝統的アプローチから「データ駆動型人文学」へ

	Traditional Approach	Digital Humanities
アプローチ (Approach)	リニアなテキストの精読 (Close Reading)	俯瞰的な全体把握とパターン抽出 (Distant Reading)
対象 (Subject)	文字・紙媒体を中心とした限られた史料	電子化・構造化されたビッグデータ・コーパス
手法 (Method)	個人の解釈に基づく定性的な価値発見	最新の解析技術とエビデンスの可視化による定量・定性融合
環境 (Environment)	個別領域における単独の探求	複数分野の技術を共有する協働 (Interoperability & Collaboration)

「デジタルヒューマニティーズ・リテラシー」の解剖図



カリキュラム・アーキテクチャ：2つの支柱



基礎理論から応用実践を有機的に組み合わせ、データ駆動型人文学の研究原理を追求する設計。

修了要件：8単位の履修ロードマップ

合計8単位以上（4科目以上）の修得

必須要件（以下から4単位以上）

- デジタルヒューマニティーズ基礎（2単位）
- デジタルヒューマニティーズ演習（2単位）
- 人文学とデジタル技術（2単位）
- デジタルヒューマニティーズ A または B（2単位）

自由選択（プログラム構成科目全般から4単位）



※前提知識不要。　※上位課程の科目は履修不可（例: 博士前期課程の学生は博士後期課程の科目を履修できません）。

提供科目マッピング１：DHの基礎と理論を築く



【基礎】デジタルヒューマニティーズ基礎

開講：春〜夏学期 / 秋〜冬学期（豊中・箕面キャンパス）
内容：DHの基礎的な原理やスキル、電子化・構造化の基礎論。



【導入】人文学とデジタル技術

開講：春〜夏学期 / 秋〜冬学期
内容：人文学研究におけるデジタルツールの役割と可能性を概観。



【実践】デジタルヒューヒューマニティーズ演習

開講：秋〜冬学期
内容：応用実践の方法論を有機的に組み合わせる演習。

提供科目マッピング２：テクストと言語を科学する

DH専門分野

・DH A / B（テクスト分析論）：春～夏 / 秋～冬
・DH A / B（言語処理と情報検索）：春～夏 / 秋～冬

※人文学資料やテキストデータを扱うためのプログラミングや処理ツール技法。

関連分野

・言語統計学A / B：春～夏
・史的言語研究A / B：春～夏

※コーパス言語学の基礎から応用までを網羅。

提供科目マッピング３：データと社会をモデル化する

データ・行動・社会
(Data, Behavior, Society)

【解析技術】デジタルヒューマニティーズA / B（データ解析）

開講：春～夏 / 秋～冬
内容：統計数理モデルに基づくデータ解析とVisualization。

【行動・社会科学】行動統計科学特講I / 特殊講義(Social Science Research Methods)

開講：夏期集中 / 秋～冬学期
内容：行動科学における統計手法、法政情報処理、社会科学のデータ分析。

【テキストマイニング】テキストマイニング論

開講：秋～冬学期
内容：大規模データから社会のパターンを抽出する実践的マイニング。

次のステップ：データ駆動型研究へのアクセス

1

シラバスの確認（KOAN）

提供される全講義の内容はKOANシラバスに掲載されています。自身の研究テーマ（Why）に合致する科目（What）を探索してください。

2

ガイダンスへの参加

各授業の第1回目に詳細なガイダンスが実施されます。カリキュラムの具体的な進め方やツールについて説明があります。

3

履修登録と注意点

一部の「選択科目」には履修人数の制限があります。シラバスを熟読し、必要に応じて担当教員へ相談の上、KOANより申請してください。

高度副プログラムURL
https://www.gjs.osaka-u.ac.jp/education/advanced_dh/